

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(計画策定に係る事業)

平成30年 月 日

協議会名:半田市地域公共交通会議

評価対象事業名:半田市地域公共交通網形成計画策定調査事業

①事業の結果概要	②事業実施の適切性		③生活交通確保維持改善計画又は地域公共交通網形成計画等の計画策定に向けた方針
【事業内容及び結果概要を記載】	A ・ B ・ C 評価	【事業が適切に実施された(されている)かを記載。適切に実施されなかった(されていない)場合には、実施されなかった事項及び理由等記載】	【補助申請を行う補助対象事業名、事業内容、実施時期等を記載】
<p>主要集客施設において、利用交通手段や利用割合、バスが利用可能となる条件などを把握した。</p> <p>また、生徒の大半が自転車通学している高校と駅から近いが坂の上にある高校の生徒に通学手段やバスの利用条件、利用意向などを把握した。地域内の公共交通に関する現況調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主要集客施設調査 10施設 1,372人 ・高校生アンケート調査 2校 701人 	A	計画通り事業は適切に実施された。	<p>地域内の公共交通に関する現況調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主要集客施設調査 10施設 7月 ・高校生アンケート調査 2校 9月
<p>新たな公共交通網を構築する市の方針を伝え、市民から公共交通に関する意見などを聴取した。</p> <p>地域住民ニーズ把握</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域公共交通市民懇談会 5会場 130人 ・くらしの足市民会議5か所 5会場 115人 	A	計画通り事業は適切に実施された。	<ul style="list-style-type: none"> ・地域公共交通市民懇談会 5会場 7～8月 ・くらしの足市民会議5か所 5会場 12月

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

平成30年1月 日

協議会名	半田市地域公共交通会議
評価対象事業名:	調査事業(計画策定)国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>本市は愛知県知多半島の中央部東側に位置し、名古屋市の南方、中部国際空港の東方にあります。人口は118,956人(平成28年11月1日現在)、年齢別人口割合0歳～14歳13.92%、65歳以上23.60%となっています。近年、人口は微増傾向ですが、高齢人口の割合も増加しています。また、自市内就業率が減少しているものの、他市町からの就業・就学者が多く、昼間と夜間の人口に差が少ない、知多半島内の「核型」都市となっています。</p> <p>市域は東西最長9.76km、南北最長8.22km、総面積47.42平方kmとなっており、標高は概ね海に面した東側が低く、西側に行くほど高くなっていますが、最高は83.7mであり、比較的なだらかな地形となっています。</p> <p>本市の道路状況は、自動車専用道路として知多半島の各都市をつなぐ知多半島道路と南知多道路と、中部国際空港へつながる知多横断道路が、市内の半田中央ジャンクションで接続し、2つのインターチェンジ(半田中央IC・半田IC)があります。他の主要道路として国道が247号と366号の2路線、県道が名古屋半田線、半田常滑線、碧南半田常滑線(衣浦トンネル)、西尾知多線など13路線があり、周辺の市町と強く結ばれています。</p> <p>本市の公共交通機関については、鉄道は名鉄河和線が市の中部を南北に縦断しており、市内には特急が停車する2駅を含め5つの駅があります。また、JR線は、東海道本線の大府駅に連絡する武豊線が市の北東部から中央部、南部を通っており、市内に4つの駅があります。駅利用者は、名鉄河和線が約13,500人(人/日)、JR武豊線は6,100人(人/日)となっています。</p> <p>民営の路線バスは、現在、知多半田駅を起点とした(上池線、有脇線、亀崎線、常滑3線)、JR半田駅及び名鉄青山駅を起点とした(鴉根線、花園線)が運行しています。利用者は減少傾向にあり、路線維持確保のために、常滑3線(国庫補助)を除く5路線について、市が赤字補てん分を補助してきましたが、大きな見直しは長年行われてきませんでした。平成28年3月には、運行事業者の意向により、岩滑線、安城空港線の路線廃止と有脇線の路線短縮が実施されました。なお、コミュニティバス等は運行していません。</p> <p>また、タクシーは、名鉄知多タクシーと安全タクシーの2社が合わせて約80台稼働しており、流し営業ではなく、主要駅や半田病院などで待機しています。</p> <p>本市では近年、路線バスの廃止や路線短縮により、公共交通空白地域が拡大したことに加え、路線バスの赤字補てん額も、平成27年度の27,000千円から平成28年度は34,000千円に増加しており、今後、財政負担の軽減や交通空白地域の縮小を図る意味からも、全市における総合的かつ効率的な公共交通体系の構築が急務となってきています。</p>

平成29年度 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価概要（全体）

半田市地域公共交通会議

平成28年1月28日設置

調査事業（計画策定） 平成30年3月 網形成計画策定予定

1. 協議会が目指す地域公共交通の姿

2

地域特性

- 人口は約11.7万人（平成27年）、半田市人口ビジョンでは、減少傾向
- JR武豊線沿線や名鉄河和線沿線に住宅地が広がり、人口が密集
- 新美南吉記念館、赤レンガ建物、ミツカンミュージアムなどの観光資源が立地

公共交通

- 鉄道は、JR武豊線と名鉄河和線が南北方向の軸として存在し、名古屋方向への移動ニーズに対応
- バスは、知多バスの6路線が運行
- 常滑線は半田市内と常滑市を結ぶ路線
- 市内を運行する5路線の利用者数は、近年横ばい傾向

図 市内バス路線の利用者数推移

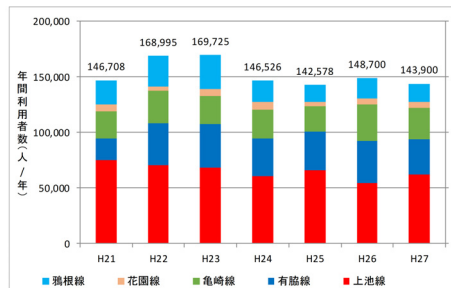
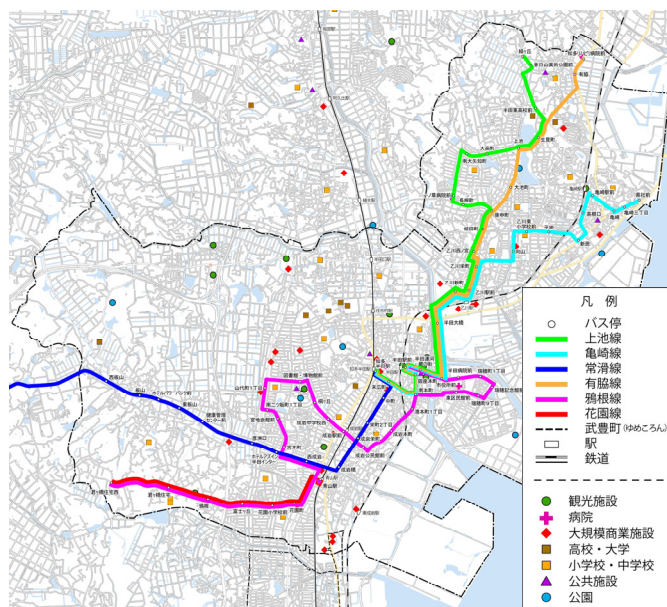


図 半田市の公共交通



第6次半田市総合計画

■ 施策が目指す将来の姿

- 交通環境や道路体系が整い、道路交通が円滑化しています
- 公共交通機関の利便性が向上し、子どもや高齢者など交通弱者の移動手段が確保されています

■ 公共交通の充実

- ① 路線バスの維持と利用促進
路線バスの路線見直し等による利用促進を進め、利便性の向上を図ります。
- ② 新たな公共交通の確保
公共交通の環境変化に対応するため、地域公共交通会議で新たな交通体系について広く意見を募り、生活に必要な交通手段の確保に努めます。

■ 観光（回遊性のあるまちづくり）

点在するまちの魅力を歴史や文化のストーリー性を持たせて情報発信するとともに、遊歩道や交通網などの整備を進めます。

■ 市民アンケート

公共交通が便利なまちだと思える市民の割合

(H21: 25.1%、H26: 23.6%、目標値H32: 35%)

第6次 半田市総合計画 (改訂版)
計画期間：平成23年度～32年度(2011年度～2020年度)



3. 目標達成に向けた公共交通に関する具体的取り組み内容

半田市地域公共交通網形成計画策定に向けた取り組み

■ 各種ニーズ調査

時期	調査名	対象者	調査より把握する内容
H28	市民アンケート	市民	・ 地域ごとの外出状況 ・ 市民の公共交通に対する意向等
	バス乗降調査	全バス利用者	・ バスの利用状況
	グループヒアリング	13小学校区	・ 地域ごとの外出状況 ・ 地域ごとの希望する外出先等
	交通事業者ヒアリング	市内の3交通事業者	・ 交通事業者の状況や意向等
H29	主要集客施設調査	市内の10施設	・ 主要集客施設への来訪手段、公共交通の利用意向等
	高校生アンケート	市内高校の2校	・ 高校生の通学状況、公共交通の利用意向等
	市民懇談会	5中学校区	・ バス交通に対する意識の変化 ・ バス交通再編に向けた意向等
	くらしの足市民会議	5中学校区	・ バス交通再編のルートに関する意向 ・ バス交通を利用するためのアイデア等

- ✓ 各種ニーズ調査結果及び懇談会結果を踏まえ、地域公共交通の課題を抽出
- ✓ 計画の基本方針、目標、実施事業、評価体系を検討

各種ニーズ調査より得られた主な結果

市民アンケート・グループヒアリング

<市民アンケート>

- ・路線バスを普段から利用している方は市民アンケート回答者の約3%
- ・路線バスが改善された場合、バスで行きたい方面は、「知多半田駅周辺」「市役所周辺」「乙川駅周辺」「図書館周辺」「イオン半田店周辺」
- ・今後の公共交通への対応としては、「経費を増額してでも利便性の向上を目指すべき」が最も多く、市民アンケート回答者の約32%

<グループヒアリング>

- ・どの地域からも「知多半田駅」や「半田病院」への移動ニーズは多い
- ・市北部は「亀崎駅」や「阿久比駅」への移動ニーズが多い
- ・市南部は「青山駅」や「常滑方面」への移動ニーズが多い

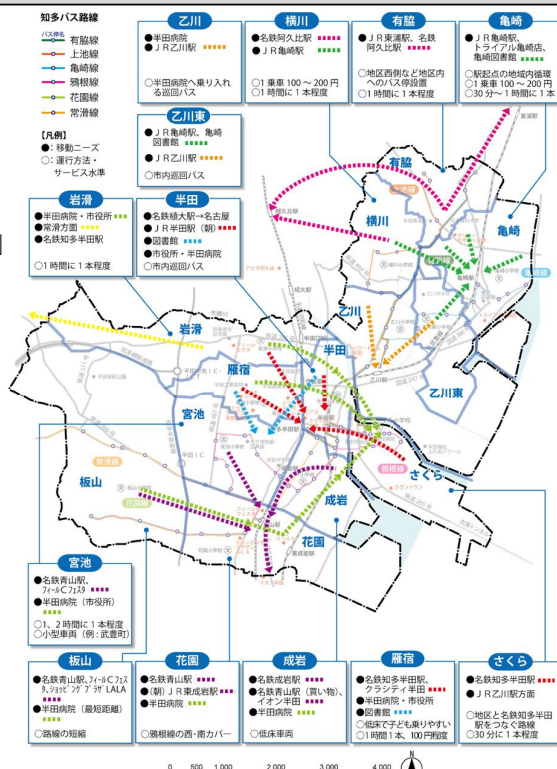
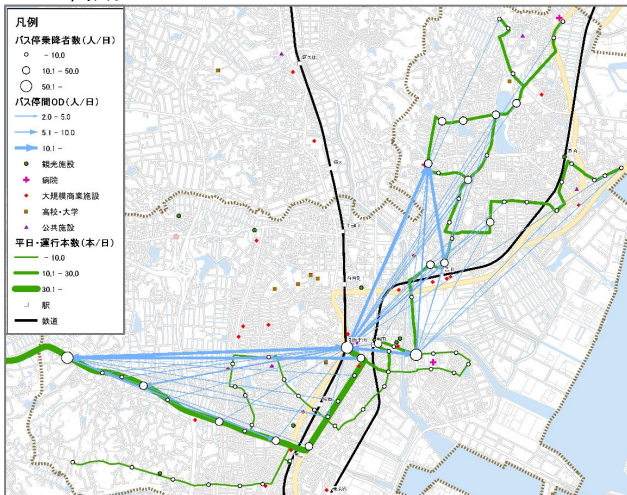


図 グループヒアリングでの移動ニーズ

各種ニーズ調査より得られた主な結果

バス乗降調査

- ・知多半田駅、市役所、一ノ草病院、板山を起点とする利用が多い
- ・常滑線では、乗降人数の半数が常滑方向への利用



交通事業者ヒアリング

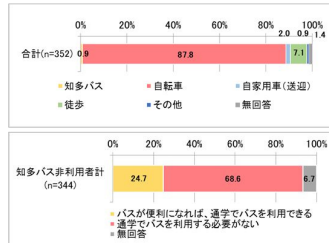
- ・運転手不足等の課題や公共交通ネットワークの基本的な考え方についての合意を得た。

主要集客施設調査

- ・鉄道駅は徒歩又は自転車利用、市役所、図書館及び観光施設は自動車利用が多い
- ・バス利用が可能となる条件が改善された場合の利用意向は、知多半田駅、住吉町駅、市役所で4割以上

高校生アンケート

- ・通学での知多バスの利用率は約0.9%
- ・通学で知多バスを利用しない高校生のバス利用の可能性は、約25%



市民懇談会

- ・地域主体でバスを運行することに対する意見が挙がった
- ・市役所や市民病院への直行を求める意見が挙がった
- ・具体的なルート、バス停に関する意見が挙がった

- 半田市が目指すまちづくりや各種ニーズ調査等から得られた結果を踏まえ、半田市の地域公共交通に関する課題を抽出

半田市の地域公共交通に関する主な課題

①人口集積が高い地域への移動ニーズへの対応

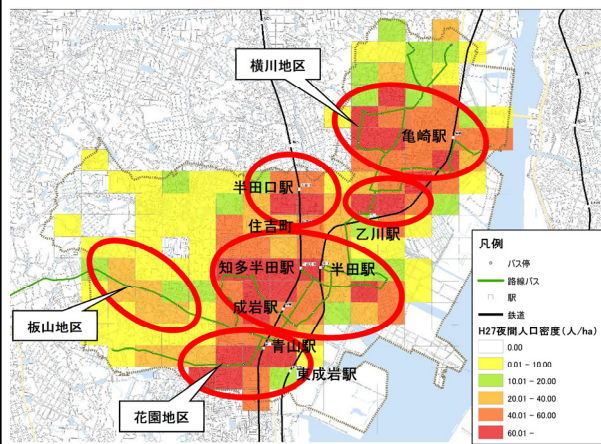


図 人口密度と公共交通ネットワーク

②現行の公共交通利用者の移動ニーズへの対応

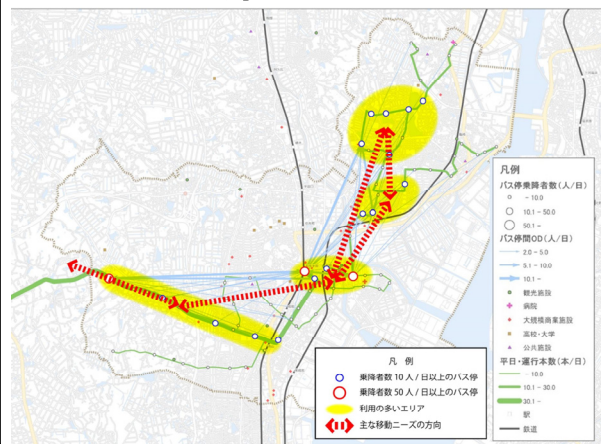


図 路線バス主要OD図

- 半田市が目指すまちづくりや各種ニーズ調査等から得られた結果を踏まえ、半田市の地域公共交通に関する課題を抽出

半田市の地域公共交通に関する主な課題

③地区や生活圏で異なる地域住民の移動ニーズへの対応

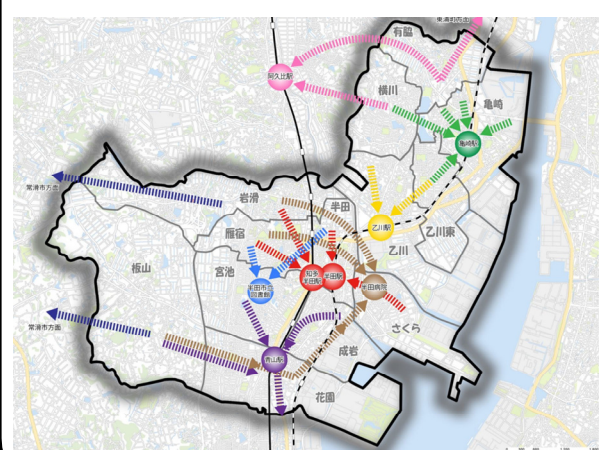


図 学区別の移動ニーズ

④半田市が目指すまちづくり及び観光振興への対応

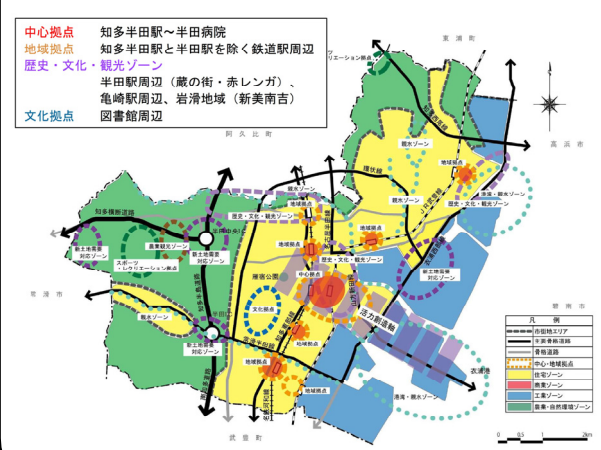


図 将来都市構造図（都市計画マスタープラン）

半田市地域公共交通網形成計画（平成29年度策定予定）では、目指す将来都市構造の構築を支援する公共交通ネットワークの再編に向け、地域住民が月に1回以上は乗りたくなる地域公共交通網の形成を目指します。

**「おでかけ環境が充実した
住み続けたいまち 半田」
の実現に向けて**

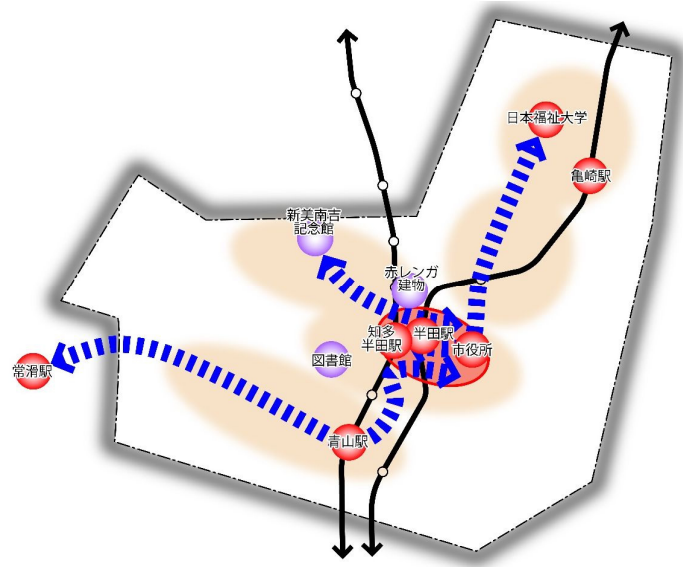
基本方針 1 半田市の一体性の強化及び観光地を回遊できる公共交通ネットワークの再編（地域・拠点・観光の連携・協働）

基本方針 2 半田メインストリートにおける公共交通サービスの充実（まちづくりと交通の連携・協働）

基本方針 3 各生活圏のおでかけニーズに対応した公共交通サービスの確保（多様な公共交通の連携・協働）

基本方針 4 関係者が連携・協働し公共交通を支え育む仕組みの構築（地域公共交通に関わる関係者の連携・協働）

図 地域公共交通体系のイメージ



平成29年度 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価概要（経緯）

半田市地域公共交通会議

平成28年1月28日設置

調査事業（計画策定） 平成30年3月 網形成計画策定予定

1.直近の第三者評価の活用・対応状況

- 今年度より対象

■ 半田市地域公共交通網形成計画策定に向けた懇談会の開催

懇談会名	対象者	開催内容
グループインタビュー	13小学校区	<ul style="list-style-type: none"> ・地域ごとの外出状況 ・地域ごとの希望する外出先
主な意見	<ul style="list-style-type: none"> ・半田病院や知多半田病院への直行を求める意見 ・30分～1時間に1本の運行を求める意見 ・阿久比町や東浦町との連携を求める意見 ・市北部は亀崎駅へのアクセス、市南部は青山駅へのアクセスを求める意見 	
懇談会名	対象者	開催内容
市民懇談会	5中学校区	<ul style="list-style-type: none"> ・バス交通に対する意識の変化 ・バス交通再編に向けた意向
主な意見	<ul style="list-style-type: none"> ・地域主体でのバス運行に対し、進め方についての質問や市の支援を求める意見 ・市役所や市民病院への直行を求める意見 ・亀崎地区での具体的なルート、バス停、周り方に関する意見 ・観光施設を巡るバス、鉄道駅のバリアフリー等の意見 	
懇談会名	対象者	開催内容
くらしの足市民会議	5中学校区	<ul style="list-style-type: none"> ・バス交通再編のルートに関する意向 ・バス交通を利用するためのアイデア
主な意見	<ul style="list-style-type: none"> ・小型の車両での運行や右回りと左回りの運行を求める意見 ・基幹のバス路線や鉄道との乗り継ぎ改善を求める意見 ・東浦町、阿久比町、武豊町のコミュニティバスとの連携を求める意見 ・バス停の待合環境の改善、バス車両の低床化、定期券や回数券を求める意見 	